

第2章 研究の方法

2-1 本研究で対象とする時代とその区分

2-1-1 本研究における時代区分

本研究では、戦前から昭和40年後半までを「開発前」、昭和40年代後半から現在までを「開発後」として扱うことにする。

琵琶湖周辺の内湖の干拓事業が、昭和20年前後から始まったことから、この時代区分は正確ではないが、西ノ湖周辺のヨシ生産業者の方に、ヒアリング調査を行った際に、水質悪化によりヨシに影響が及び始めた時期が「昭和50年前後」とお聞きした。

実際の経験に基づくことから以上のように定義する。

2-1-2 本研究における「維持管理」

本研究でさす「維持管理」とは、ヨシの刈り取りおよび火入れをさす。なお、実際の維持管理にはヨシの植栽も含むが、本研究であつかう「維持管理」は、ヨシの植栽を含まない。

2-2 文献調査について

(1) 歴史的変遷にみるヨシの利用に関する文献

琵琶湖周辺における往時の人とヨシのかかわりについての基本的な情報を得るために、郷土資料および民俗学の文献による調査を行った。

郷土資料からは、かつての琵琶湖沿岸のヨシを利用した生活について調査した。

琵琶湖沿岸の開発による変化については、「琵琶湖干拓史」など行政資料等で調査を行った。

(2) ヨシにかかわる主体の意見の調査

ヨシに関して専門的に知識を有する主体についての調査は、学術的に知識を有する生態学者については、ヨシの生態に関する文献調査を行い、ヨシの維持管理に関する留意点を抜き出した(表2-1)。

また、経験的に知識を有するヨシ生産業者については、ヒアリング調査によってヨシの維持管理に関する留意点を得た。

2-3 ヒアリング調査について

(1) 開発前のヨシと人とのかかわり(生産業者の立場から)

近江八幡のヨシ生産業者にヨシと生活のかかわりについてヒアリング調査を行った。

表 2-1 生態学者のヨシの維持管理に関する留意点として用いた文献

著者名	論文表題	掲載紙名	巻(号)	ページ	発行年
西海功・有水さやか	ヨシ原の火入れがオオヨシキリの繁殖密度と社会構造に与える影響	関西自然保護機構会報	19(1)	3～9	1997
栗林実	琵琶湖沿岸の植物の現状と保全	琵琶湖研究所所報	16	78～85	1997
吉良竜夫	ヨシの生態おぼえがき	琵琶湖研究所所報	9	29～37	1991
吉良竜夫	ヨシ群落の保護を考える	水情報	13	6～10	1993
藤原公一・臼杵崇広・根本守仁	ニゴロブナ資源を育む場としてのヨシ群落の重要性とその管理のあり方	琵琶湖研究所所報	16	86～93	1997
浜端悦治	ヨシ刈りについて	オウミア	No.58-3		1991
藤井伸二	絶滅危惧植物から見た琵琶湖湖岸環境の多様性とその特質	関西自然保護機構会報	21(2)	141～149	1999
須川恒	ツバメの集団営巣地となるヨシ原の重要性	関西自然保護機構会報	21(2)	187～200	1999

(2) 現在のヨシの維持管理についての調査

滋賀県内におけるヨシの維持管理の取り組み状況を明らかにするため、仕事としてヨシの維持管理されている近江八幡のヨシ生産業者、主に事業として滋賀県のヨシの維持管理を行っている淡海環境保全財団、地域の住民が自主的にヨシの維持管理に取り組んでいる大津市および大津市内7学区の実行委員長および支所職員にヒアリングを行った(表2-2, 表2-3)。

主体の概要については、行政資料や各主体の活動に関する資料によって調査をした。

また、ヨシ松明祭りの現状については大津市と淡海環境保全財団で行われているヨシ松明祭りを調査した。

表 2-2 ヨシの維持管理を行っている団体へのヒアリング項目

ヒアリング項目(大項目)	ヒアリング項目(小項目)	ヒアリング項目(大項目)	ヒアリング項目(小項目)
各主体別の活動概要について	主催	ゲストに対する考慮について	ヨシ刈りの参加呼びかけ方法
	参加団体		雨天中止の際の連絡方法
	参加人数と人数の増減		「ヨシの効用」伝達の有無
	活動開始時期		「ヨシの効用」説明の有無(ヨシ刈り当日)
	作業時間		作業の際の注意事項の説明
	ヨシ原の場所		けがの対策
	会場(単数・複数)	刈り取りについて	刈り取りの日時
大津市学区別の概要について	学区の特徴		時期決定の際の考慮(日時)
	人口		時期決定の際の考慮(水位)
	自治会数		刈り取りの際に考慮すること
	ヨシ原の面積		水際のヨシ刈る／刈らない
	作業時間	火入れについて	火入れをする／しない
	ヨシ松明に利用している量		火入れの日時
	刈り取り分で松明がつくれるか否か		時期決定の際の考慮(日時)
	ヨシ刈りに参加してもらう工夫		時期決定の際の考慮(天候)
	松明祭りに参加してもらう工夫		時期決定の際の考慮(水位)
	ヨシ刈り以外の行事ある／ない		火入れの際に考慮すること

表 2-3 ヒアリング調査対象者

主体	所属	名前	日時
行政	淡海環境保全財団	A氏・B氏	4/9・12/4
	滋賀県琵琶湖環境部自然保護課	C氏	5/9
	大津市環境部環境保全課	D氏	5/9・12/5
学者	滋賀県ヨシ群落保全審議会委員長(制定当時)	E氏	8/26
生産業者	ヨシ生産業者(地主)	F氏	7/29・12/10
	琵琶湖ヨシ環境事業協同組合	G氏	11/23
	ヨシ生産業者(地主)	H氏	11/26
	ヨシ生産業者(加工)	I氏	11/29
	ヨシ屋根葺き職人	J氏	12/2
NPO	NPO(1)	K氏	9/7
	NPO(2)	L氏	12/6
地域	イ学区	M氏	12/8
	ロ学区	N氏・O氏	12/9
	ハ学区	P氏・Q氏	12/11
	ニ学区	R氏	12/7
	ホ学区	S氏	12/21
	ヘ学区	T氏	12/21
	ト学区	U氏	12/21

2-5 分析方法

ヨシ刈りを行っている主体の活動内容についてヒアリング調査をする。

ヨシに関して専門的に知識を有する生態学者(学術的に知識を有する主体)とヨシ生産業者(経験的に知識を有する主体)の意見を調べ、それぞれのヨシの維持管理における留意点を挙げる。

大津市民ヨシ刈り、大津市7学区行われている地域ヨシ刈り、淡海環境保全財団の事業(ヨシ刈りのみ)淡海環境保全財団のヨシ刈りボランティア、西ノ湖の生産業者とNPOのヨシ刈りボランティア(ヨシ刈りのみ)のヨシの維持管理状況および松明祭りの現状を表にまとめ、比較を行い、各主体におけるヨシ刈りの位置付けを把握する。